

問13 次の【Ⅰ群】の業績と【Ⅱ群】の人物とを結びつけた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

【Ⅰ群】

- A マサチューセッツ州ドルトン町で、「自由」と「協同」を根本原理とする新教育法であるドルトン・プランを開発した。これは、教師が課す「アサインメント」（学習割当）を児童・生徒が「契約仕事」として引き受ける形で実施され、個別学習の形態をとるものである。
- B 個々の生徒の学習状況を把握し、適切な指導を行うために、診断的評価、形成的評価、総括的評価を提唱した。これら3つの評価を適切に行い、学習条件を整備すれば、大多数の生徒にとって完全習得学習（マスタリー・ラーニング）が可能であると考えた。

【Ⅱ群】

- ア パークースト (Parkhurst, H.)
イ モンテッソーリ (Montessori, M.)
ウ ブーゲンハーゲン (Bugenhagen, J.)
エ カイヨワ (Caillois, R.)
オ ブルーム (Bloom, B. S.)

(組み合わせ)

- A B
1 ア エ
2 ア オ
3 イ ウ
4 イ エ
5 イ オ

問33 次の文のうち、『生徒指導提要』（文部科学省 令和4年12月）の一部として、不適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 生徒指導は、児童生徒が自身を個性的存在として認め、自己に内在しているよさや可能性に自ら気付き、引き出し、伸ばすと同時に、社会生活で必要となる社会的資質・能力を身に付けることを支える働き（機能）です。
- 2 生徒指導において発達を支えるとは、児童生徒の心理面（自信・自己肯定感等）の発達のみならず、学習面（興味・関心・学習意欲等）、社会面（人間関係・集団適応等）、進路面（進路意識・将来展望等）、健康面（生活習慣・メンタルヘルス等）の発達を含む包括的なものです。
- 3 発達支持的生徒指導は、特定の課題を意識することなく、全ての児童生徒を対象に、学校の教育目標の実現に向けて、教育課程内外の全ての教育活動において進められる生徒指導の基盤となるものです。
- 4 集団指導と個別指導は、集団に支えられて個が育ち、個の成長が集団を発展させるという相互作用により、児童生徒の力を最大限に伸ばし、児童生徒が社会で自立するために必要な力を身に付けることができるようにするという指導原理に基づいて行われます。
- 5 教育課程の編成や実施に当たっては、学習指導と生徒指導を分けて考え、両者のバランスを図りながら、どうすれば両者の充実を図ることができるのか、学校の教育目標を実現できるのかを探ることが重要になります。

問36 次の文の（ ）にあてはまる語句として、最も適切なものを一つ選びなさい。

（ ）とは、「目標に準拠した評価」のための「基準」作りの方法論であり、学生が何を学習するのかを示す評価規準と学生が学習到達しているレベルを示す具体的な評価基準をマトリクス形式で示す評価指標であり、レベルの目安を数段階に分けて記述して、達成度を判断する基準を示すものである。学習結果のパフォーマンスレベルの目安を数段階に分けて記述して、学習の達成度を判断する基準を示す教育評価法として盛んに用いられるようになった。これまでの評価法は客観テストによるものが主流を占めていたが、知識・理解はそれで判断できたとしても、いわゆるパフォーマンス系（思考・判断、スキルなど）の評価は難しい。ポートフォリオ評価などで（ ）を用いて予め「評価軸」を示しておき、「何が評価されることかなのか」についての情報を共有するねらいもある。

- 1 正統的周辺参加
- 2 集団準拠評価
- 3 ルーブリック
- 4 PISA調査
- 5 マスタリー・ラーニング

問46 次の文のうち、中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」(令和3年1月26日)の一部として、適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 現在、G I G Aスクール構想により学校のI C T環境が急速に整備されており、今後はこの新たなI C T環境を活用するとともに、一斉授業による多様な指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」を充実していくことが重要である。
- B 「指導の個別化」と「学習の個性化」を教師視点から整理した概念が「個に応じた指導」であり、この「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念が「個別最適な学び」である。
- C 子供がI C Tを日常的に活用することにより、自ら見通しを立てたり、学習の状況を把握し、新たな学習方法を見いだしたり、自ら学び直しや発展的な学習を行いやすくなったりする等の効果が生まれることが期待される。
- D 学校だけではなく地域住民等と連携・協働し、学校と地域が相互にパートナーとして、一体となって子供たちの成長を支えていくことが必要である。その際、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)と地域学校協働活動を一体的に実施することが重要である。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	○
2	○	○	×	×
3	○	×	×	○
4	×	○	○	○
5	×	×	×	×